

研修報告書

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	大沼 聖子		
所属大学	早稲田大学大学院	学部	創造理工学研究科
学科	建築学専攻	学年	修士2年
専門分野	建築意匠		
派遣国	スイス	Reference No	CH-2022-000093
研修機関名	Stücheli Architekten AG	部署名	Competition team
研修指導者名	Matthis Tinner, Kana Ueda	役職	Praktikant
研修期間	2022 年 4 月 1 日 から 2022 年 9 月 23 日 まで		

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。
2. 研修内容および派遣国での生活全般について 4 ページ程度で具体的に報告してください。
(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

1. 研修報告の概略を1 ページ以内にまとめてください。

スイスチューリッヒの Stücheli Architekten という建築設計事務所にて、4 月1日から9 月23日までの半年間インターンを行なった。

研修報告では、主に「派遣先での研修内容」「研修以外の生活」の二つの項目についてまとめる。

1. 派遣先での研修内容

派遣先では、コンペチームに配属され、主に以下の二つのプロジェクトに携わった。

- ・商業＋オフィスの複合施設の改修 (Galleria Glatpark)
- ・国立歴史博物館の新設 (Concorso Nuovo Museo Cantonale Di Storia Naturale)

また、コンペ以外にも実施設計のファサードの検討や、事務所のリノベーションに関わるイメージパースの作成等も行なった。

報告書では、これらの研修成果と、事務所での生活について記載した。

2. 研修以外の生活

平日の5日間は、朝から夜までの勤務があり、自由に過ごす時間は少なかったが、仕事後や週末の過ごし方について、まとめた。スイスの都市や建築など、印象に残ったものをいくつか記載する。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について写真を含めて 4 ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポート等)

研修派遣先の Stücheli Architekten は、スイスのチューリッヒに位置し、4 月 1 日から 9 月 23 日の半年間を自然と歴史に包まれたこの街で生活しました。チューリッヒは、チューリッヒ湖を中心に谷地形になっており、東側の丘に位置する住居から西側の丘に位置する派遣先へ、中心のチューリッヒ湖の側を通過して毎日トラムに乗って通勤しました。スイスでは交通機関として鉄道やトラムが普及しており、特にチューリッヒ市内はトラムで容易に移動することができました。湖を眺めながら通勤する毎日は、スイスならではの楽しみであり、日本の通勤とは異なる光景が強く心に残っています (Fig.1)。



Fig.1 チューリッヒ湖からアルプスの山々を眺める

平日は、9時から18時半までの8.5時間の勤務を行ないました。私のインターン派遣先は、50人程度の規模であり、勤務を通して若手から年配の建築家、学生のドラフターなど様々な立場の所員と関わることができました。日本の企業や学校では、上下関係が尊重されるのに対して、私の派遣先は非常にフラットな関係であり、普段から昼食でみんなとコミュニケーションを取り、休暇明けにはお互いの休みについて語り合うことが日常でした。常にカジュアルで過ごしやすい事務所の雰囲気も、このインターンを充実させてくれた理由の一つであると感じています。

派遣先には、建築家とインターンの学生で構成されるコンペチームが存在しました。スイスの公共建築がコンペによって設計者を選択する方式であったため、このコンペチームが事務所のデザインの方向性を決める重要な役割を担っていました。私自身もコンペチームに所属し、模型作りや3D モデルの作成を通して、建築家の補助になるよう努力しました。

インターンを行なった半年間には、主に「商業・オフィスの複合施設の改修 (Galleria Glatpark)」 「国立歴史博物館の新設 (Concorso Nuovo Museo Cantonale Di Storia Naturale)」の2つのプロジェクトに携わりました。スイスでは、古い建築物の保存が重要であり、この二つのプロジェクトでも、既存の建物を残しつつ、現代の都市の文脈に沿って新しい機能を付与するようなプログラムが組み込まれており、仕事を通して都市の更新のあり方を学びました。

一つ目のプロジェクトは、派遣初日からスタートし、主に PC の 3D ソフトを用いた改修デザインの検討、また図面の作成を行いました。(Fig.2)

このプロジェクトはチューリッヒの北側の Glatpark というエリアにある商業+オフィスのビルを、FLEX WORKING などの新しい働き方を盛り込んだ空間に改修するものでした。

規模の大きい建築物であったことや、慣れないソフトウェアを使用した作業の中で、戸惑うことや思うようにいかないこともありましたが、優しい同僚とともに次第に仕事にも慣れていくことで、結果として無事にコンペの提出を終えることができ、達成感を覚えました。

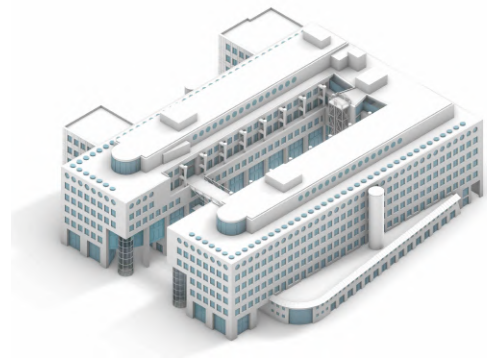


Fig.2 Galleria Glatpark 商業+オフィスの複合施設のコンペ

二つ目のプロジェクトは、スイスの都市ロカルノの中心地に国立歴史博物館を新設するコンペでした。古くから残る修道院の敷地に美術館を新設し、街の象徴的な場所を新しく更新していく必要がありました。一つ目のプロジェクトは、元からある建築物を改修する計画でしたが、このプロジェクトは、新築であったため、模型によって形の検討を行う段階から始まり(Fig.3)、コンペのプレゼンのための図面等(Fig.4)を作成しました。

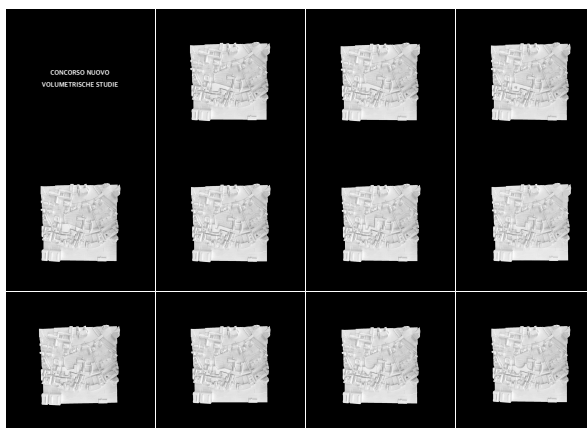


Fig.3 形の検討



Fig.4 美術館配置図

スイスの公用語は、ドイツ語・フランス語・イタリア語と地域によって異なることが特徴です。私が滞在したチューリッヒはドイツ語圏でしたが、このコンペの敷地はイタリア語圏であったため、同じスイス内でのコンペであるにもかかわらず、提出の際にイタリア語を使用することがスイス特有の面白さであると感じました。

これら二つのコンペに加えて、実施設計の段階に進んでいる建築物のファサードの検討(Fig.5)や、事務所の

リノベーションに際して、イメージパースの作成等 (Fig.6) も行いました。



Fig. 5 ファサードの検討



Fig. 6 事務所のリノベーション検討

半年間という短い期間でしたが、様々なプロジェクトに携わることができ、非常に充実した研修となりました。

私にとっては、派遣先での研修以外の日常生活や休日の過ごし方も学びの一つとなりました。日常生活では、度々文化の違いを感じる場面があり、物価の高さには驚くことがよくありました。スイスは他のヨーロッパの国々と比較しても物価が高いため、外食や生活用品の購入に関しては管理が必要でした。スーパーマーケットでの野菜等は安価であったため、昼食も自炊をして持っていく生活をしていました。この点は少し不便ではありましたが、慣れていくうちにコツを掴んで安く豊かな生活を心がけていました。

しかし、物価は高いものの、文化や芸術に関して学生に優しい特典が多いことが印象的でした。例えば、スイスには立派なコンサートホールが多くあり、そこで開催されるオペラやオーケストラのコンサートを非常に安価な学生料金で鑑賞することができました。日本であったら手の届かないような芸術に、若い世代が触れやすいことから、こうした文化・芸術への尊重と意識の高さを身に染みて感じました。

また、建築学生として今回スイス各地への旅行と建築鑑賞を楽しみにしておりました。スイスと言えば、広大な自然、アルプスの山々などに囲まれた豊かな国という印象が強いですが、その中に溶け込む建築の美しさもまた見どころでした。スイスでは、湖を中心として都市が栄えており、それぞれの場所固有の美しさを体験することができました。休日は、土日の二日間でしたが、スイスの発達した鉄道を利用して、積極的に各地を旅行することができました。次ページでは、特に心に残っている4つの箇所について紹介したいと思います。

Fig.7 はチューリッヒから1時間程の都市ルツェルンの Mt.Pilatus から、湖を眺めた写真です。スイスに到着してから間も無く赴き、雪の残る4月のスイスを堪能しました。

Fig.8は、世界的に有名なスイスの建築家ピーター・ズントー氏の設計による St. Benedict Chapel です。この建築を訪れるためには、チューリッヒから2時間半程列車に乗り、さらにその駅から1時間ほど徒歩で山道を登る必要がありました。とても長い道のりではありましたが、徐々に変化する広大な景色を眺めた道中が印象に残っています。

Fig.9 は、スイスの首都であり、街並みが世界遺産にも登録されているベルンの風景です。スイスでは、景観を守るために、見えないところで厳しい規制がなされています。そうした努力の上に、美しい街並みが保存されるのだと強く感じました。

最後の写真は、マッターホルンです。スイスの象徴とも呼べるその美しい形状と景色に感動しました。

IAESTE のインターンを通して、自身の専門分野である建築意匠設計の観点から、日本以外の現場を学び、またスイスの文化や風土を存分に体験することができました。非常に有意義で貴重な期間となり、この経験を将来に生かしたいと強く考えるようになりました。

この素晴らしい機会を与えてくださった、IAESTE、派遣先、支えてくださった皆さんに、改めて感謝申し上げます。



Fig. 7 Mt.Pilatus



Fig.8 St. Benedict Chapel



Fig.9 Bern



Fig.10 Matterhorn

Ⅱ. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。
2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・☐いいえ)
実際の就業時間: 1日(8.5)時間
1週(5)日間;(月)曜日から(金)曜日
3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。
週単位: 現地通貨(550CHF) 日本円(77000 円)
全支給額: 現地通貨(2200CHF) 日本円(308000 円)
4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例:現金手渡し・☒銀行振込・小切手等)
6. 研修中の滞在先について、**宿舍の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。**
子供病院の従業員が借りる FLAT のような場所でした。トイレ・バス・キッチン、1フロアで共有し、個人に15m²ほどの1部屋が与えられていました。チューリッヒの中では、家賃が安価で清潔だったため、住みやすい環境でした。
安全な住宅街に立地していたため、安全面、音なども問題なく過ごすことができました。チューリッヒの中央駅からもトラムで15分ほどの距離でした。
7. 研修中の滞在先(宿舍)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)
トラムで25分程の距離でした。10分間隔で走るトラムを使用していました。費用は片道3CHF ほどでしたが、1ヶ月の定期を60CHF で購入していました。(HALF FARE CARD 使用)
8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。
9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。(はい・☒いいえ)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。
勤務時間後は、チューリッヒ湖でゆっくりと過ごし、休日には、電車に乗ってスイスの街を旅して過ごしました。
2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。
3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会がありましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。
職場の同僚の自宅にお邪魔して、スイスのラクレットチーズを食べるなど食文化に触れました。
4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。
現地に行く前から、スイスの自然の豊かさを想像しておりましたが、実際に訪問した後には、その豊かさを身を持って体験することができました。
湖を中心として街が栄えた地形や、美しい山々に囲まれた景観に感動しました。
また、自分自身の専攻が建築であるため、スイスの伝統的な集落や家から現代建築まで、全く違った様式を経験できたことも印象的でした。
5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい・☒いいえ)
日本の文化に興味のある人が多く、日本食や日本語についての質問を多く受けました。

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題がありましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。
2. 派遣国への入国時に何か問題がありましたか。(はい・☒いいえ)
「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。
3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。
4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。
出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。
5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい・☒いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。
6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。

研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくださいましたか。

IAESTE スイス事務局へ訪問し、一緒にランチを食べました。近況の報告やスイスでの生活について話す非常に有意義な時間となりました。

生活に関しても様々な助言をいただきました。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。

日本から離れて、実際に専門の分野で仕事を経験できることは、将来の選択肢を考える上で非常に有意義であると感じました。

働き方の違いや文化・慣習の違いを事前に想像することはできても、体験することで得る学びには勝らないと感じ、今回 IAESTE の研修の機会は貴重なものであったと感じました。

また、VISA 申請のサポートや事務所探し等に、IAESTE 事務局の方々が親身に携わっていただいたことで、円滑に進めることができたと感じています。

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(はい) いいえ)

「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。

「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。

専門が建築設計であったため、3D CAD ツールの習得は事前に済ませておりました。よって、派遣先でもその経験を活用することができました。

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。

(はい) いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。

日常レベルの英会話とその国の言語を習得しておくことで、より現地の方とのコミュニケーションが楽しく快適に行えると感じました。

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

クレジットカードと、2ヶ月分の家賃+500CHF ほど現金で持参しました。

準備は十分であったと感じますが、現地で日本のクレジットカードを使用すると手数料が大幅にかかるため、海外送金の手数料が安く済む国際的なクレジットカードを最初に用意しておくよかったと思います。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。

家電製品(ドライヤー、ヘアアイロン、アイロン等)は持参し、役に立ちました。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。

(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

スイスは非常に秩序のある国で、生活する面で日本からのカルチャーショックはそれほど感じませんでした。

物価が高いことは生活する上で少し大変でしたが、野菜や果物、乳製品など、物によっては日本よりも安価で、こうしたものをうまく使うことで、インターンでいただける生活費の中でも豊かに暮らせると思います。

私が滞在したチューリッヒは国際的な都市であったため、多くの人が英語を使ってくれる状況でした。

他の都市でも英語が通じる地域が多いように感じました。しかし、より現地の人と親密に交流するためには、その地の公用語を覚えておくといいかと思います。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？

派遣先の事務所では、多様な人が働いていました。学校に通いながら製図工として働く学生や、大学を卒業したての外国人、子供がいるお母さん、スイス人のご年配の方など、様々な境遇の人が同じ職場でフラットに働いている環境は新鮮で、これからの働き方を考えるきっかけとなりました。

また、研修前は、自分自身の国際理解を深めることを中心に考えていましたが、グローバルな社会の中での日本の位置付けを実感し、日本人として海外で働くことで、ヨーロッパとは全く違う文化の影響を受けている自分の考えやデザインを、彼らに還元することも可能だと考えるようになりました。

9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

以前から海外への留学に興味を持っておりましたが、今回参加したことで一層その思いが強くなりました。将来的に、また海外で経験を積みたいと考えております。

10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

海外で自分の専門分野を使って働くという経験は、自分の将来の働き方を考える有意義な時間だと感じました。全く異なる環境で働くことには少し不安もあると思いますが、きっとそれ以上に楽しい体験ができると思います。頑張ってください。